

## 会 議 要 旨

会議の名称	平成30年度第2回川越市社会福祉審議会地域福祉専門分科会
開催日時	平成31年1月22日（火）14時から15時まで
開催場所	川越市役所本庁舎 4階 4A会議室
出席者（委員） 氏名（人数）	海沼委員、樋口委員、小高委員、岡田委員、荻野委員、猪鼻委員、稲葉委員、佐藤委員、矢部委員、本郷委員、原委員、村上委員、最首委員、橋本委員、松山委員（15名）
欠席者（委員） 氏名（人数）	芝波田委員、小笠原委員、藤倉委員（3名）
事務局職員	市：福祉部参事兼福祉推進課長、福祉推進課職員 社協：地域福祉課長、地域福祉副課長、地域福祉課職員
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 挨拶</li> <li>3 議題               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「みんなでつくる福祉のまち川越プラン」の中間評価方法（案）について</li> <li>(2) 地区別福祉プランの中間評価について</li> </ol> </li> <li>4 その他</li> <li>5 閉会</li> </ol>
配布資料	資料1 「みんなでつくる福祉のまち川越プラン」の中間評価方法（案） 資料2 地区別福祉プラン評価シート（中間評価） 資料3 平成31年度 地域福祉専門分科会関係スケジュール

議 事 の 経 過

事務局	<p><b>1 開会</b> 会議の公開についての承認</p>
事務局	<p><b>2 挨拶</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 過半数の委員出席による会議の成立の報告</li> <li>● 稲葉会長挨拶</li> </ul>
事務局	<p><b>3 議題</b> (1)「みんなでつくる福祉のまち川越プラン」の中間評価方法（案）について ○資料1に基づき、事務局より説明。 (質疑、意見等)</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中間評価シート2における評価の視点からの事業の評価は、「貢献度」では無く、「関連度」である。 その部分は、普遍的なものであり、事業の推進状況とは別である。</li> </ul>
事務局	<p>⇒ 今回の事業の評価は、事業の進捗状況の評価と同時に、次期計画策定も視野に入れながら、今の計画の中に記載されている事業が次期計画に記載する必要があるのか、という視点も持って検討していきたいと考えている。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 関連度が低いながらも、効果は低かったのか高かったのかも評価すべきだと思う。</li> </ul>
事務局	<p>⇒ 計画の中での位置づけも考えながら、効果の評価を考えていく。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 年度ごとの実績の評価方法の部分で、数量的評価の活動と成果はどう違うのか。</li> </ul> <p>⇒ 例えば、市の啓発事業などを実施量で評価する場合には活動指標とし、事業の目的と指標が一致する自治会の加入率などは成果指標と捉えるものである。指標の整理をするものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 今後の方向性というのは、いつまでのことなのか</li> </ul> <p>⇒ 32年度までと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 次期計画策定に向けて、中間評価をすることは必要である。地域福祉計画は法改正により上位計画に位置付けられたことを踏まえ次の計画に向かっていかなければならない。 特に介護保険事業計画との連動性を明確にしていかないと、地域包括ケアシステムの構築と地域共生社会の実現に向けた体制整備、地域福祉サポートシステムの構築を連動して充足させていかなければならない。</li> </ul>

委員	<p>特に介護事業計画の方は予算があるので、それを活用しながら重ねてやっていくためにも、介護保険の部署とも連動していくようなことを意識しておく必要がある。</p> <p>この評価が単にここでの評価で終わってしまうことのないよう方向性が示されることが望ましい。</p> <p>●評価の視点からの評価について、単に高い、低いではあいまいであるので、何か基準がある方が良い。</p> <p>数量的評価と質的評価をどう住民に理解していただいて、評価してもらうのが課題となるから、尺度設定を次期計画にも向けてきちんと整理する必要がある。</p>
委員	<p>●評価を誰がどのように行うのか。</p> <p>評価方法をきちんとしないと今後の計画につなげていく上で、非常にアバウトになってしまう。評価のシステム、誰がどのようにしていくかを検討・精査してください。</p>
委員	<p>●複数の視点で評価した方が精度は上がるので、そのような評価方法を検討してもらいたい。</p> <p>一般的に客観的（数的）評価と主観的（質的）評価は、両方とも大事なものであるが、福祉の分野、サービスに関しては、主観的評価は大切にすべきだと認識している。</p> <p>しかし、この2つは相関して、主観的評価が上がっている場合、客観的評価も上がっていることがあるから、そのような相関性なども押えるべきである。</p> <p>国はシンプルに最低限の評価で持ってくるが、川越市は重点的な部分だけでも、そのような部分を評価していく必要がある。</p>
委員	<p>(2)地区別福祉プランの中間評価について</p> <p>○資料2に基づき、事務局より説明</p> <p>●地区別プランは、地区ごとの特色や内容にバラつきがある。個々の事業を評価していくのは勿論だが、大きな目標は達成しているのか、横ばいなのか、後退なのかなどの相対的な評価も入れるべきである。</p>
事務局	<p>⇒個別の事業が何個Aがあつたら良いと言えるものではない。目標全体として達成しているのか客観的に評価すればいいのか悩んでいる。</p> <p>その点も含めて、中間評価の中では地域の方にも一緒に考えていただけるような形を考えていく。実際に地域の方々と関わっているCSWが住民の方と協議しながら進めていき、地区の方々にも、達成具合を意識していただけたら良いと考えている。</p>
委員	<p>●効果が上がらないのが現実で、横ばいで維持できれば合格だと</p>

委員	<p>思っている。地区の大きな目標をベースに評価していく視点も持っていただけると良い。</p> <p>●川越市地域福祉計画と川越市地域福祉活動計画とは、総合的にリンクする形になっている。前段の川越市地域福祉計画では、2層・3層という切り口でやっている。2つの計画の関連性を見る上では、社協の地域福祉活動計画も2層・3層という視点で見なくてはいけないのではないのか。</p> <p>2点目として、福祉分野の上位計画になることから、密接に関連している介護保険事業計画の地域包括ケアの9圏域で見なければいけないものもあるのではないのか。CSWとSCの活動は密接に関連しているのだから、9圏域の視点からの評価もしておかないと介護保険事業計画との関連が評価できない。その辺の見方も整理していただきたい。</p>
委員	<p>●SCは社協が業務委託を受けているが、22地区と9圏域の整理は社協がするのか。</p> <p>本来は行政の事業なので、地域共生社会に向けて、地域包括ケアシステムを構築するために突き合わせる必要が出てくるところであり、それが実動の部分に関わってくる。9圏域に社協がどう関わってくるのかと、市の方がどうするのかを明確にするべきである。</p> <p>社協の取組は、民間の地域住民の活動であるが、市としては施策・行政計画に関わってくるのだから、この部分を整理した上で評価の方法を考えていかなければならない。</p>
委員	<p>●22の地区に地区社協がある。たくさんの社協の事業をそれぞれ担当している。自治会長も忙しく、懇談会などを開いても、地区別福祉プランとの整合性は、分からないまま、事業が大変ということで終わってしまう。もう少し、事業と計画に整合性を持たせて、ご理解いただけるように持って行った方がいい。</p>
委員	<p>●地区別福祉プランの評価は、CSWの評価だけではなく、住民の方たちがどう見ているのかも重要なので、地区の方々と一緒にやらなければならない。</p> <p>せっかくいいことをやっても、住民の方々に何をやっているのか分からない、理解できない状況になってしまうのは、後に続いていかない。やっていただいていることが、本当に意味のある大事なことだと評価するとともに、必要な課題などを明らかにしていくことが、次期計画につながっていく。地区別プランをきちんと見直しをしていくことで、住民側の意識啓発にもつながる。</p>
事務局	<p>⇒プランの見直しの必要性の声が上がってくる地域もあるが、プ</p>

<p>委員</p>	<p>ランを立てて終わってしまっている地域もある。</p> <p>今回の中間評価はそういった見直しや意識啓発の良い機会になると考えている。22地区を軸に地域包括支援センターと連携をとりながらやっていきたい。</p> <p>●バラつきはあるが、地域会議が軌道に乗ってきていて、地域の課題を話し合い、具体的な行動を起こしている地域もある。</p> <p>地域会議の出席者の中には、地域の活動者や地域のキーパーソンになる方々も多いが、評価する上で、そのような活動との連動性を持たせることとかできるよう考えているのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>⇒地区社協をベースに進めていくという計画になっている。地域会議のメンバーには地区社協もメンバーに入っていることから、地区社協での話し合いをするときには、地域会議で出ている課題等を踏まえて考えていく。うまく連動できるように、働きかけ、整理していく。</p>
<p>委員</p>	<p>～全体をとおして～</p> <p>●地域共生社会の実現に向けて、国で描いている具体的な絵は、本市におけるP38ページの地域福祉サポートシステムの構想図と重なってくる。今回の中間評価の尺度も重なっている。</p> <p>地域づくりと、様々な問題に対処できる相談体制づくり、それによって共生社会の実現をする。地域の中には様々な人たちがいるが、そのような方々がいきいきと暮らしていけるような仕組みを身近な圏域で機能するようにする。ここには、医療・介護など色々な側面を含めて機能していくようなものが求められている。</p> <p>行政と社協が次期計画では、地域福祉計画を上位計画と位置づけた上で、地域福祉サポートシステムがきちんと機能するよう、どう進めていくかを視野に中間評価・次期計画のたたき台を作成しなければならない。</p> <p>また、川越市は生活困窮の計画がないので、非常に弱い。加えて、災害は地域でも注目されてきているので、その点も中間評価で押さえて、次期計画で補っていく必要がある。</p>
<p>事務局</p>	<p>4 その他 資料3に基づき、今後のスケジュール等について説明。</p> <p>5 閉会</p> <p style="text-align: right;">〔15時分終了〕</p>